

〈小学生の部 最優秀賞〉

## 思いやり感覚をみがこう

長森西小学校 六年 日比 祐依乃

「英語ペラペラでうらやましいな。」

それは、素直に感じた感想でした。外国からやってきたその子に、うらやましいなって思ってた言葉でした。

「私は外国人だけど、英語は話せないの。」

返ってきた言葉は、すらすらの日本語でした。外国人だから、英語が話せると、勝手に思い込んで言ってしまった言葉でした。

心からうらやましいなと思って言った言葉が、結果的に相手に嫌な思いをさせてしまったことがあります。次に気を付けようと思っても、そういうことは周りではなくさんありました。

「女の子だからピンク色がいい。」

「男の子だから泣かない。」

どこにでも飛び交っている言葉です。でもこれってよく考えたら、本当にそうなのかなと疑問に思いました。

私は女の子だけどピンクより水色がいいなって思うし、男の子だって別に泣いたっていいんじゃないかと思います。一人一人みんな性格も、好きなものも全部違って、それは〇〇だからってしぼられるものではないなと思いました。だから私も、自分が、外国人だから英語が話せると勝手に決めつけてしまったことがよくなかったんだと思いました。

でも、どうしたらよいのか分かりませんでした。みんな悪気があって言っているわけじゃない。女の子だからピンクが似合うと本当に思って、よかれと思ってすすめてくれていました。私の発言も、うらやましいなと純粹に思って出てしまった言葉です。

学校の道徳の時間に、「偏らない心」について勉強をしました。「〇〇だから」という言葉。この言葉は偏見を生む可能性があるなと思いました。話す前にちょっと大丈夫かな。と考えてみたいです。外国人だから英語が話せるではなく、英語が得意かどうかを質問すればよかったなと思いました。女の子だからピンクがいいではなく、何色が好きかを質問すればよかったなと思いました。そうしていくうちに、自分の中で決めつけていた偏見はなくなり、さらに、友達からいろんな新しい一面を教えてもらえて、今までよりもっと仲良くなれた気がします。

思いやりの心って簡単に言うけれど、もっているつもりでいても相手を傷つけてしまうこともあるし、難しいなと思いました。でも、こういう経験や道徳の学習で、自分の中の「思いやりの感覚」みたいなものが少し分かってきたように思いました。

悪意のあるものだけが、人を傷つけるのではなく、悪意のないものもひとを傷つけることもあります。先生は

「大人でも分からない人がいる中で、よく大事なことに気付いたね。」

と、言ってくれました。

これからも、もしかしたら失敗することもあるかもしれないし、人を傷つけてしまうこともあるかもしれないけど、相手のことを決めつけないようにしていきたいです。

私は、今年卒業し、来年中学校へ行きます。これから中学でたくさん新しい友達ができると思います。毎日楽しく過ごせるように、友達の好きなことや話をたくさん聞いて、決めつけることなく、仲良く過ごせるよう「思いやり感覚」をみがいていきます。